

NISSHA 株式会社
「2019 年 12 月期 Q1 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2019 年 5 月 9 日開催)

Q1. Lens Technology との協業について、現在の考え方を教えてほしい。

A1. Lens Technology との JV の準備は順調である。一方、現在の製品需要は弱く、当社は日本での生産キャパシティとその稼働率を考慮する必要がある。新たなお客さまの製品についてはコストが合えば検討する。

Q2. 5G（第 5 世代移動通信システム）関連での事業機会はないか。

A2. スマートフォンの筐体には高い電波透過性が求められる。電波透過性が低い金属筐体に代わりプラスチックやガラスなどの素材が採用される可能性が高い。当社の産業資材の加飾フィルムはこうした 5G に適した素材に金属調など多様な意匠を与えることが可能であり、5G は新たな事業機会になりうる。

Q3. 産業資材の Q1 は営業赤字であったが Q2 以降の見通しはどうか。

A3. Q2 には海外成形工場における品質コストの問題が収束する見通し。Q3 以降は収益が改善に向かう。

Q4. メディカルテクノロジーには季節的な需要変動があるか。

A4. ほとんどない。四半期毎に 60~65 億円程度の売上高で安定して推移する見通し。

Q5. デバイス事業における自動車向け製品の収益性はどのように考えたらよいか。

A5. 自動車向けは製品のライフサイクルが長く、季節ごとの需要変動が少ない。したがって生産の稼働が平準化され、安定した収益が期待できる。

Q6. 自社株買いについての考え方は。

A6. 常に資金の使い方のオプションのひとつとして考えている。